

シングルマザーの家族生活と仕事生活の調整に関する生活戦略
—インタビューデータを用いた質的分析—

末盛 慶（日本福祉大学）

1. 問題の背景

家族生活と仕事生活の両立や調整が社会的に注目されて久しい。ワーク・ライフ・バランスという言葉も、広く社会に浸透している。

しかし、こうした論点に関しては夫婦世帯を前提とした議論が多い。理論的に考えると、家族生活と仕事生活の両立等の困難を抱えやすいのは、ひとり親と言える。しかし、ひとり親のワーク・ライフ・バランスをとりあげる研究は少ない。

そこで本報告では、ひとり親の中でもシングルマザーに焦点をあて、シングルマザーが家族生活と仕事生活の調整に関してどのような生活戦略をとっているのか、その生活戦略に影響を与える社会的文脈とはどのようなものか、そしてシングルマザーがとった生活戦略がどのような帰結を生み出す可能性があるのかを、インタビューデータを用いて質的に明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

家族生活と仕事生活の両立・調整に関しては、家族社会学においていくつか研究が行われている（船橋 2006：小笠原 2009）。こうした研究は、家族生活と仕事生活の調整のパターンの析出を主たる分析目的としている。

家族生活と仕事生活の調整に関わる諸行為に直接着目する研究は主に海外で行われている（Voydanoff 2014）。しかし、シングルマザーのワーク・ファミリー・バランスをめぐる研究はあまり行われていない。

シングルマザーの生活戦略に関連した研究を概観すると、貧困から抜け出すための諸行為を検討する研究がある（Edin and Lein 1996）。一方、家族生活と仕事生活の両立・調整に関わる研究はあまり行われていない。

以上から、シングルマザーの家族生活と仕事生活の調整に関する生活戦略を明らかにすることを本報告の目的とする。本研究課題に取り組むことにより、研究上の空白をうめ、かつ、シングルマザーを支援する実践活動および政策立案に向けた一助としたい。

3. 方法

調査対象は、愛知県に在住するシングルマザー9名である。愛知県母子寡婦連合会を通して、研究協力者を紹介していただいた。調査時期は、2018年2月から2019年4月である。本調査は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会の承認を得た上で実施している。インタビューの場所は、研究協力者が居住する地域や日本福祉大学の教室で行った。インタビューの所要時間の平均は2時間前後である。なお、本調査は縦断的なインタビュー調査になっている。本報告では、初回と2回目のインタビューデータを分析に用いる。

4. 分析と考察

中間的な分析結果として2点ある。1点目は、仕事生活をめぐる生活戦略である。シングルマザーは、所得の確保のため仕事への関与を維持していく必要がある中で、家族生活とのバランスを得るため多様なクレームを職場で展開し、仕事からの圧力を調整していた（明確なクレーム／さりげないクレーム）。

2点目は家族生活における生活戦略である。本人とその親族との関係が生活を規定する重要な要因となっており、特に同居するか否かでシングルマザーの生活状況が変化していた。そして親と同居していることが必ずしもシングルマザーの安寧に結びついていない点も示された（親族資源の順機能と逆機能とその二重性）。

分析全体を通じて、シングルマザーの生活戦略そのものが日本のジェンダー構造に強く規定されていること、離婚前までに本人が培った人的資本や就業経験が本人の離婚後の生活戦略に影響を与えていることが示された。

（キーワード：シングルマザー、生活戦略、ジェンダー）